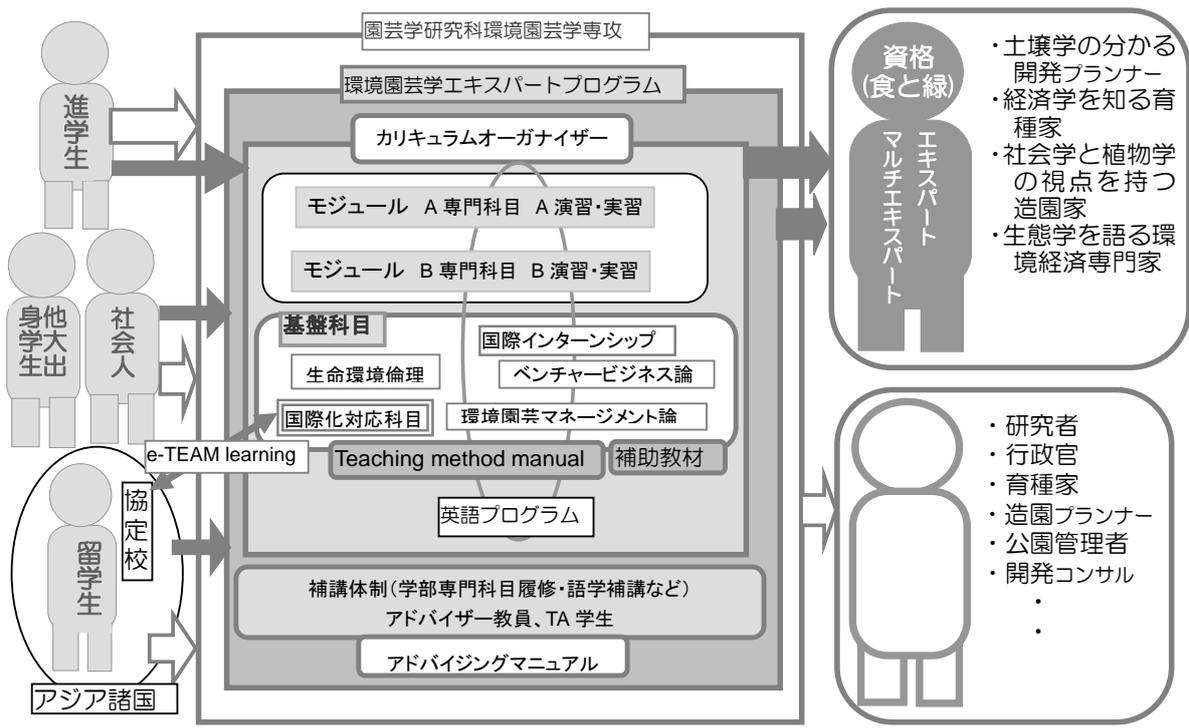
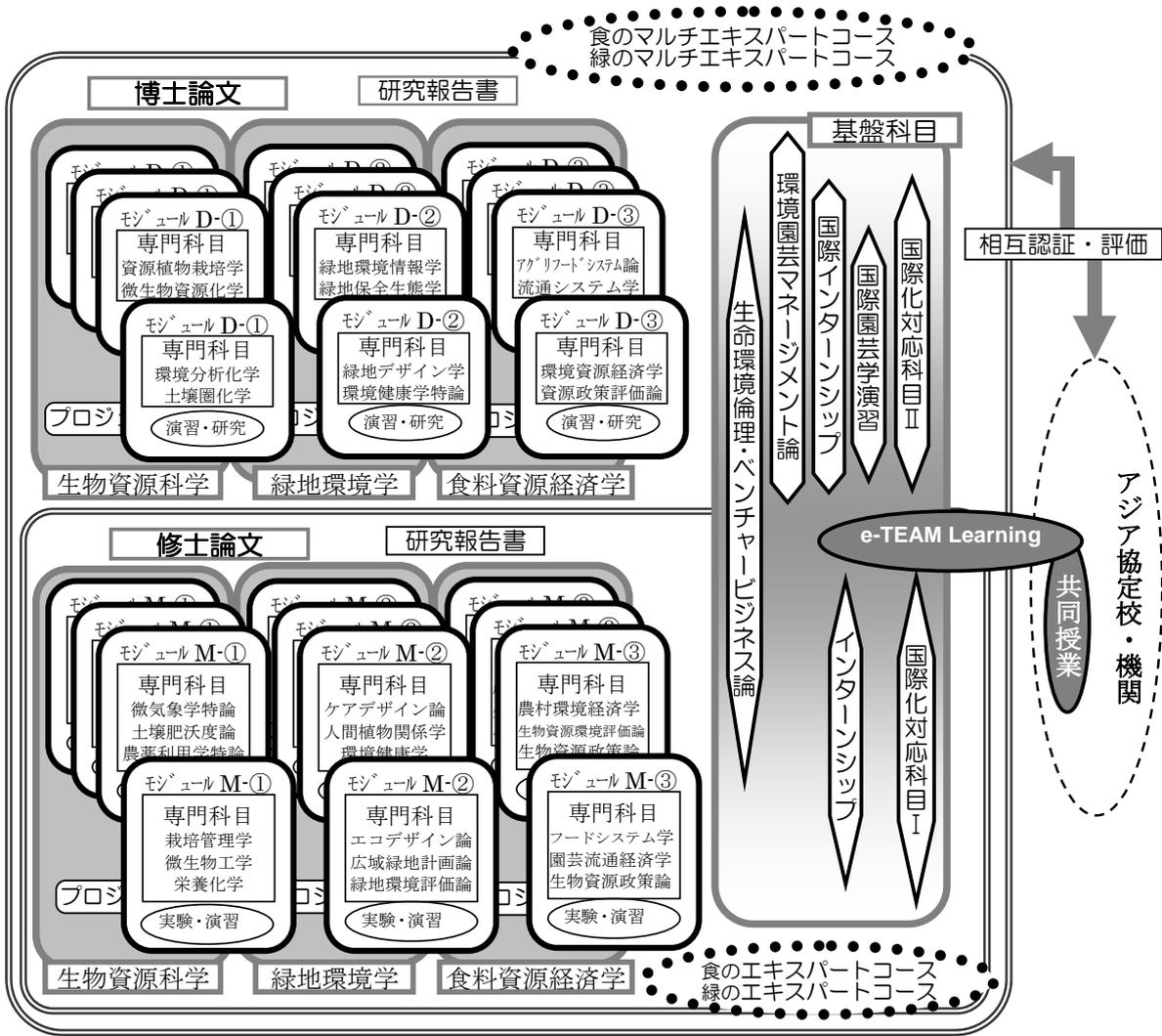


教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	千葉大学	申請分野(系)	理工農系
教育プログラムの名称	大学院環境園芸学エキスパートプログラム (アジアの園芸学教育研究拠点における食と緑のエキスパート養成)		
主たる研究科・専攻名	園芸学研究科		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科・専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 菊池 眞夫		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>(背景と目的)</p> <p>食資源のグローバル化がもたらす飢餓と飽食の並存、食の安全性確保の困難性の増大、緑・植物資源を活用することしか解決法が残されていないヒートアイランド現象や犯罪の多発に象徴的に現れている世界の大都市高密度社会における病理的現象の深刻化、地球温暖化を始めとする国境を越えた環境問題の増大等、園芸学研究科がこれまで対象としてきた<u>専門的分野が解決すべき問題は飛躍的に増大している</u>。これらの問題解決のためには、従来の細分化された専門領域の個々の知識ではなく、領域横断型や境界領域の課題に対応できる幅広い知識・技術を身に付けた専門家の養成が不可欠である。そこで、わが国唯一の園芸専門学府として開学以来百年の歴史をもつ園芸学研究科では、これらの社会的要請に答えるべく、食・環境・健康を教育研究の柱とした環境園芸学専攻を平成19年4月に改組・発足させた。そこで、本教育プログラムは、<u>アジアにおける園芸学教育研究の拠点大学</u>として、<u>環境園芸学のマルチエキスパートを養成しようとするものである</u>。環境園芸学の課題とは「人類の福祉の向上」に集約され、限界ある地球環境資源の下で持続的な発展を可能にすることにある。そのモデルは一樣ではなく従来の方法論だけでは解決が困難である。これらの問題を解決できる人材として、高度な専門性と柔軟な発想力を兼ね備えた食のマルチエキスパート、緑のマルチエキスパートを養成するために、複合的で充実したカリキュラムの実質化を行う。</p> <p>(内容と特色)</p> <p>1) モジュール制の導入・・・発想力・集団創造性の開発と領域横断的能力の育成 本プログラムの学生は、学位取得を目指す主任指導教員の指導を受けるメインモジュールとともに、副コースのモジュールを履修する。モジュールは、講義のみならず、演習や実習・特別研究を含む有機的な履修ユニットであり、モジュール毎にレポートを作成する。</p> <p>2) 食と緑のエキスパートとマルチエキスパートの育成と認定 それぞれのコースに設定されたモジュール群からコースを横断した2つ以上のモジュールを履修し、加えて基盤科目を履修して修士の学位を取得した学生を、モジュールの組み合わせによって、食のエキスパートあるいは緑のエキスパートとして認定する。さらに、博士後期課程の関連モジュールとマネジメント系基盤科目、実践的プロジェクト科目を履修し、博士の学位を取得した学生をマルチエキスパートとして認定する。また、特に優れた学生に対しては、4年以内でマルチエキスパートに認定される短期修了制度を推進する。</p> <p>3) カリキュラムオーガナイザーの設置・・・「イージーオーダー」型の柔軟なカリキュラムの策定 留学生、他大学出身者、社会人を含む全学生に対して、カリキュラムオーガナイザーが相談に応じ、学生の履歴と希望、将来展望に応じたカリキュラム編成を行う。長期履修や短期修了など、履修年限の柔軟な編成にも応じる。さらに、カリキュラムオーガナイザーは、幾つかの組み合わせパターンを考えて、専門科目のモジュール群を作成し、基盤科目の編成と併せて、各学生の需要に合わせた「イージーオーダー」型のカリキュラムを策定する。</p> <p>4) 基盤科目の充実・・・エキスパートとしての基盤的教養の修得 高い倫理観(技術倫理)と起業精神・知財関連知識(ベンチャービジネス論)、環境園芸マネジメント論などの基盤科目により、倫理感と企画・運営力の育成を図る。同時に、インターンシップ科目、国際化対応科目では、e-TEAM Learningによるアジア協定機関との共同教育を取り込むことにより、コミュニケーション能力、異文化理解力、国際感覚と語学力の向上を目指す。</p> <p>5) 相談補講体制の充実・・・他大・海外出身学生への配慮 他大・海外出身学生に対する相談補講体制を今以上に整備することにより、海外協定校の学生や他大出身学生等、内部進学者以外が、食と緑のエキスパートプログラムへの参入障壁を低くすることができる。既に確立している協定校との単位互換制度に加え、Webを利用した渡日前研修を実施することで、留学生の本プログラムへのスムーズな参加を可能とする。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

大学院環境園芸学エキスパートプログラム



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「人類の福祉の向上」を本専攻のキーワードとして、「社会の多様な課題に応える、広く深い学識、実践力、倫理観を持った人材の育成」という、社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿った教育課程の編成、学生に対する修学支援、教員のファカルティ・ディベロップメントなどに積極的に取り組んでいる点は高く評価できる。

教育プログラムについては、「高度な専門性と柔軟な発想力を兼ね備えた環境園芸学のマルチエキスパート」の養成を目指す専攻の特徴と個性を生かしたプログラムとなっており、高度な専門性の育成を目的とした専門科目モジュール制の導入、学際性・国際性の育成を目的とした基盤科目の充実、さらにそれらを履修した学生へのエキスパート認定制度の設置など、ユニークな取組が計画されている点は高く評価できる。また、実施体制についても配慮されており、大学全体の中での位置づけも明確にされていることから、実現性、実効性が期待できる。ただし、海外インターンシップも含めたアジア協定大学との連携等については、計画の実施に向けてさらなる具体化が望まれる。